



新潮劇院 (一般財団法人 日本京劇振興協会)

SHINCYO THEATER COMPANY / The Japan Association for the Promotion of Chinese Opera

新潮劇院は中国伝統芸能「京劇」を祖父の代から家業とし
自身も北京京劇院に13年所属した張春祥が日本における
京劇普及を目的として1996年に設立した在京京劇団です。

主演と伴奏を在日の京劇俳優と楽師が務め低コストながら
本格的な伝統京劇を上演。上演前にはレクチャーを行い
初心者でも気軽に楽しめる公演をお届けしています。

2016年には活動20周年の節目を迎え、より精力的に
活動に邁進するために財団法人となりました。



伝統京劇と平行して劇団の名称である『新潮』が
示す通り、より先進的な芸術表現にも取り組み、
在京京劇団ならではの特色を生かした新たな芸術の
創造にも邁進しております。

- ・ 劇中のセリフに日本語を取り入れる
- ・ 歌舞伎、ミュージカルなど他ジャンルとの融合
- ・ 伝統的な台本をアレンジした新演出京劇、など



より広く一般の方々に京劇を知ってもらうために
各地でワークショップも行っております。

2002年からは世田谷区にて京劇教室を開講。
生徒達により行われる京劇発表会は演技・演奏ともに
日本人による初の本格的京劇として話題となりました。

2015年からは子供から大人まで参加できる
無料京劇ワークショップ「京劇であそぼ」を企画し
着実に京劇の裾野を広げております。



設立当初より日本人京劇俳優の育成にも力を入れ、
現在では舞台の主要なキャストを担っております。

2009年からは、中国トップの芸術機関である
中国戯曲学院大学で講師を務めた張桂琴を迎え、
本格的な劇団研修制度を開始しました。

2014年には指導を受けた小学生の大島陸が
中国最高峰の伝統芸能コンクールである
「中国児童戯曲小梅花」にて外国人として始めて
参加し、金賞を受賞しました。



業務内容

- ・中国伝統芸能「京劇」に関わる業務
京劇上演 / ワークショップ / 京劇指導
- ・舞台芸術と映像に関わる業務
俳優派遣 / 舞台演出 / 振付 / 殺陣
- ・中国語に関わる業務
中国語指導 / ナレーション / 翻訳 / 通訳
- ・中華芸能のコーディネート
中国雑技 / 中国伝統音楽奏者



主宰・張春祥(ちょうしゅんしょう)

北京生まれ。祖父の代から京劇を家業とする京劇一家の三代目。北京戯曲学校卒業後、北京京劇院に13年間所属。1989年来日。俳優・演出家・中国語指導などで幅広く活躍。1996年から在日京劇団「新潮劇院」を主宰する。

<主な芸歴>

1993年、1998年 中島みゆき「夜会」
2003年 テレビ東京ドラマ「赤い月」
2008年 蜷川幸雄演出「さらばわが愛・霸王別姫」他



専任講師・張桂琴(ちょうけいきん)

中国戯曲学院大学演劇学科卒業、同大学院を修了。山西省京劇団で京劇俳優として活躍する一方、14年間にわたり母校演劇科の教員を務め、日本や韓国でも京劇の特別講師を務める。現在、新潮劇院専任講師。

<主な芸歴>

1981年 山西省戯曲コンクール第一位受賞。
1983年 山西省戯曲コンクール最優秀賞受賞。
1992年 スウェーデン国際芸術祭参加、他



近年の主なプロジェクト

[文化芸術による子供の育成事業 | 文化庁]

文化庁が選定した文化芸術団体が小・中学校にて芸術公演を行う巡回公演事業に採択され、2015年度は静岡・岐阜・長野・神奈川のエリア、20の学校にて開催。

中国トップの京劇団である中国国家京劇院に所属する唯一の日本人(外国人)俳優である石山雄太氏を主役に迎え、事前のワークショップにて京劇の段取りを指導し、本番では子供たちもプロと同じ衣装・着付けをして登場するという本格的な内容です。



[霸王別姫(はおうべっき)～能楽と京劇 日中ユネスコ無形文化遺産の融合]

日本の伝統芸能「能楽」と中国の伝統芸能「京劇」。どちらもユネスコ無形文化遺産に登録されているアジアの伝統芸ながら、相反する『静』『動』の性質をあえて融合させることで、アジアの流れを汲む新たな舞台芸術を創造するプロジェクトです。

2015年にはテアトルフォンテ・アズビル・アワード芸術文化活動支援制度対象事業に採択されました。



新潮劇院 / 一般財団法人 日本京劇振興協会

SHINCYO THEATER COMPANY / The Japan Association for the Promotion of Chinese Opera

評議員: 佐藤 信(演出家)、劉 穎(成城大学教授)、平林 宣和(早稲田大学教授)

理事長: 潮 新(張春祥) 常務理事: 梅木 俊治 理事: 加藤 徹(明治大学教授) 監査: 山下 輝彦(元慶應大学教授)

〒157-0071 東京都世田谷区千歳台5-22-7-103 Tel/Fax: 03-6411-4168 <http://www.shincyo.com/>

お問い合わせ担当: 梅木 (携帯)080-3486-3352 (E-Mail) ume@shincyo.com

■京劇について

京劇の歴史

中国伝統芸能であり「国劇」とも呼ばれている京劇ですが、京劇自体の起源は200年前ほどで、安徽省の地方劇である徽劇(きげき)がルーツとなっています。

1790年、当時の皇帝であった乾隆帝(けんりゅうてい)の八十歳の祝賀のとき、徽劇の劇団が北京で大変に好評を博し、そのまま定着したのが始まりとされています。その後、いろいろな地方劇の要素を吸収するとともに、様々な改良が加えられて、現在のスタイルを確立しました。



京劇の特徴

まずは派手なメイクと豪華な衣装に目を奪われますが、元々京劇は旅公演をしていた背景があり、舞台装置は簡素で、通常は机一卓と椅子二脚程度しかありません。また、使用できる小道具も限られています。

京劇俳優の基礎となる四技能として唱(歌)、念(セリフ)、做(しぐさ)、打(立ち回り)があり、俳優たちは前述したような限られた舞台条件の中で技能を駆使し、様々な場面設定を自分の手で舞台上に創り上げます。



京劇の代表的な演目

かつての女形の名優「梅蘭芳(メイランファン)」が創作し、その後、陳凱歌(チェン・カイコー)監督が映画のモチーフにした「霸王別姫(はおうべっき)」は現在でも大変人気があり中国の外国人向け劇場では連日上演されています。

また、日本でも人気のある「三国志演義」や「西遊記」などは京劇でも人気があり、よく上演されます。

その他にも「水滸伝」「岳飛伝」「楊家将」といった歴史小説を題材にした演目、「楊貴妃」「王昭君」「武帝」といった実在の人物を元にした演目、そして任侠物や昔話を元にした演目も数多くあります。



京劇の観賞方法

「伝統芸能」ということで、堅苦しいイメージがありますが元々は庶民の娯楽として親しまれてきたものです。あまり構えず気楽にご覧いただければと思います。

上演中に俳優が登場したり、技を繰り出した時には拍手をしたり、見得を切った時には「好(ハオ!)」と掛け声をかけて演者を応援し、演者はそれに応えてさらに熱演を繰り広げます。

新潮劇院の公演では事前のレクチャーで応援の仕方も説明しますので、こちらも楽しんで挑戦してみてください。



■メディア紹介事例



2017年6月7日 NBC,KTN,NIB,NHK長崎

長崎精道小学校・中学校で行われた子供たちとの共演京劇公演への取り組みが長崎4放送局のニュースで取り上げられました。

NBC長崎放送

「孫悟空 天界で大暴れ」 小学生が京劇に挑戦

https://www.youtube.com/watch?v=8yvqAnHwE_A



2017年5月1日 華僑報、関西華文時報

日本人による京劇発表会の模様が紹介されました。

2016年6月9日 人民日報、看看新聞(上海衛星放送)

在日京劇団「新潮劇院」20周年記念公演の模様が紹介されました。

人民日報記事

<http://j.people.com.cn/n3/2016/0919/c94473-9116463.html>

【動画】

<http://www.kankanews.com/a/2016-09-16/0017689475.shtml>



2015年1月29日 神奈川新聞

平成26年度テアトルフォンテ・アズビル・アワード芸術文化活動支援制度対象事業となった能楽師とコラボレーション公演「霸王別姫(はおうべっき)～能楽と京劇 日中ユネスコ無形文化遺産の融合～」への取り組みが紹介されました。



2014年8月31日 朝日新聞・都内版

新潮劇院京劇教室に通い、張春祥の指導を受けた小学生の大島陸くんが中国戲劇界において最も荣誉ある賞「戲劇梅花賞」の少年版である「中国兒童戲曲梅花賞」にて最高賞である金賞を受賞した旨が掲載されました。彼の参加については中国紙「泰州旺通」「中国艺术报」「泰州日报」などでも取り上げられました。

■朝日新聞・都内版

「京劇で金の演舞、夢はスーツアクター 小4大島君」



■2014年 三鷹図書館 京劇ワークショップ



■劇団主催・成城ホール共催 無料京劇ワークショップ「京劇であそぼ」 ※2015年より月1回開催



■2017年 ヨコハマアートサイト2016 こども京劇プロジェクト 森村学園 幼稚園での公演



参考)文化庁巡回公演で京劇公演に参加した子供たちの感想

- 私は今まで京劇という伝統文化を知りませんでした。しかし、この機会を通して皆さんが教えてくれたことはとても楽しかったです。孫悟空の迫力がすごかったです。
- とてもキレイなメイクをしている人が大勢出てきて感動しました。
- 足を挙げたりするのは難しかったけれど、棒を回すのはすぐにできました。またやりたいです。
- ハードなふりつけでしたが、本番は勢いよくスムーズにできてよかったです。衣装やメイクはとても華やかで落とすのが損と思いました。友達とも協力できて仲も深まったと思います。この貴重な経験はめったにないもので、大切な思い出になりました。
- 日本の歌舞伎とは違う迫力があり、激しくて凄かったです。また機会があったらやってみたいです。
- 衣装を着ると暑くて、動きも激しいので凄く疲れました。私たちよりも重い衣装やアクセサリーをつけながら激しく動く役者さんはすごいと思いました。

